

好きが
つながる
まちづくり



カイト 一般社団法人 kite

2022年1月設立。国有有形文化財の風館「塩屋」の管理、貸し出しやカフェとしての営業、「塩屋古物市」や「小川蚤の市」など小川町商店街の街並みを生かしたイベントの運営などを行う。

メンバー (左から) 坂田 純一さん、
代表 井上 早代さん、川村 侑未さん



小川小学校で商店街の歴史の授業を行う

人と人をつなぐ風になる——。



「思いと行動がきつと地域に新しい風を吹き込む」。そんな思いを実践するのは、小川町商店街の有形文化財である「風の館 塩屋」を拠点にする一般社団法人 kite。
誕生のきっかけは、坂田さんが学生時代、地元の小川町商店街を研究し、その魅力に惹かれたことが始まり。その後、井上さん、川村さんと出会い、3人は意気投合。当時の塩屋の管理団体「風の会」をサポートする中で「若い世代の視点で塩屋を生かしたい」「自らの手で動かしていきたい」という思いが強まり、kiteを立ち上げることに。



塩屋でのイベント時は多くの人でにぎわう

「初めは周りから心配の声もありましたが、蚤の市などのイベントが反響を呼び、次第に信頼も高まりました」と井上さん。kiteのテーマは「人をつなげる場所づくり」。小学生とピザを焼いて販売したり、塩屋の広い畳を生かしてヨガを開催し、さまざまな世代や立場の人が交わる機会を生み出している。メンバーが考えるまちづくりは「まずは一歩、踏み出してみる」こと。「新しく宇城市にきた人も地域に関わる機会があります。自分から興味を持って足を運んでみたら、意外と面白い出会いがありますよ」と川村さん。地元出身でなくとも地域を豊かにする活動に貢献できる。各々の好きをやり続け、行動した先のつながりを大事にしてきたkiteの答えだ。

「この歴史ある商店街はまだまだ楽しめる余地があります。これから小さな活動を積み重ねて人と人をつなぐ、きっかけの場を作っていきたい」と坂田さん。地域に根ざし、行動を重ねる若い世代の挑戦がこれからの地域活動に希望の灯をともしす。



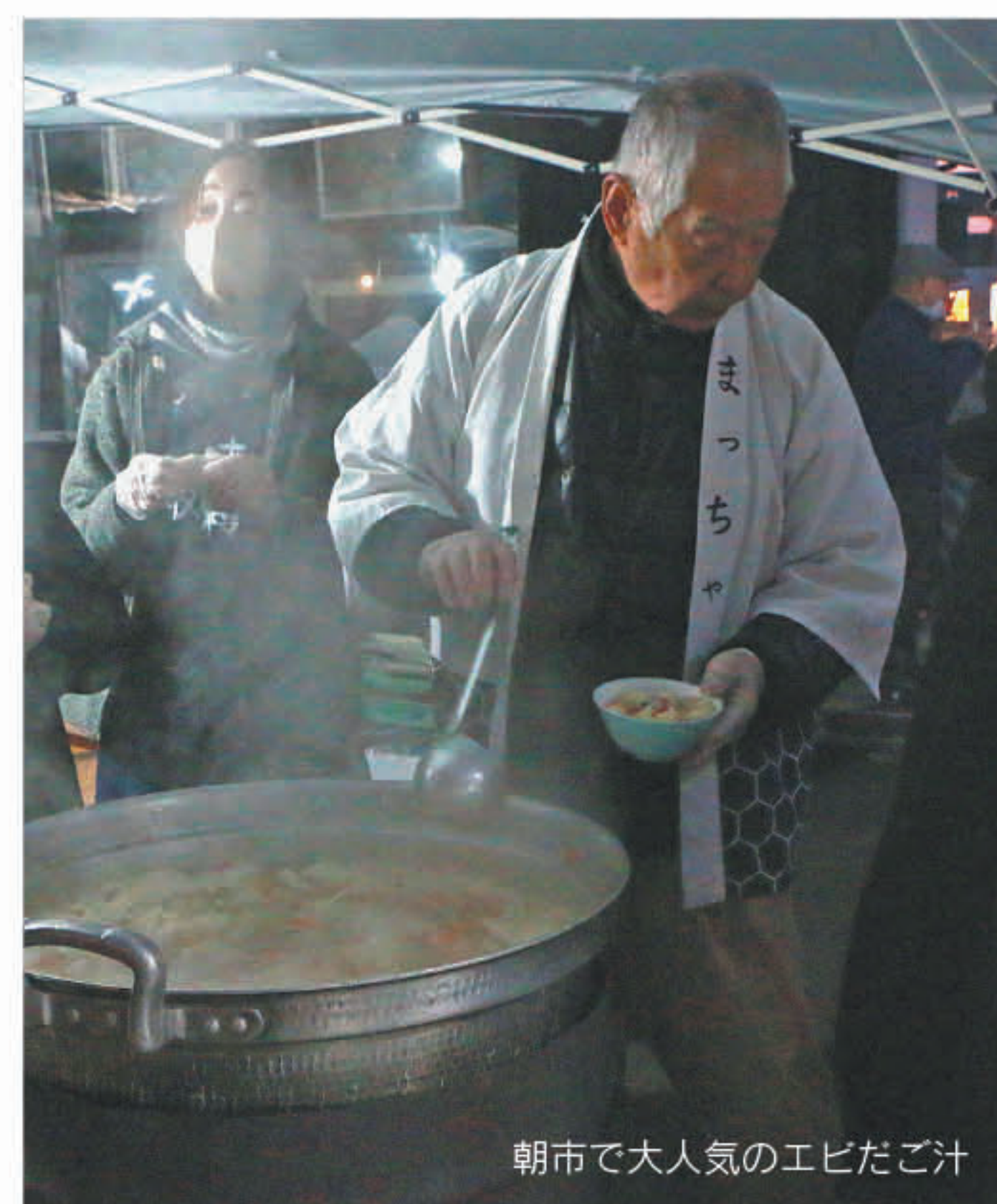
初代会長
坂本 順三 さん

5代目会長
内山 貴博 さん

1992年11月発足。松合(まっちゃん)地域を盛り上げるために、まっちゃん朝市や夜市のほか、イベントを実施。【朝市(毎月第3日曜6時～ ※8月を除く)、夜市(8月の第3土曜18時～)】
メンバー 地域住民など約20人

まっちゃん活かそう会

思いを受け継ぎ、新しいカタチへ——。



朝市で大人気のエビだご汁



夜市を盛り上げるステージイベント

松合の美しい街並みにぎわいを残したいという思いから平成4年に発足した「まっちゃん活かそう会」。
名物のエビだご汁や味噌の詰め放題を目当てに、市内外から多くの人が訪れる朝市をはじめ、過去にはハゼ釣り大会や白壁写真コンテストなどのイベントも行ってきた。
初代会長を務めた坂本さんは「街並みを守ることはもちろん地域と住民の皆さんを元気づけたいという思いで続けてきた」と語る。平成11年の高潮災害の年にも休まず朝市を続けたの

は「こういう時こそ頑張らないといけない」という強い思いがあったからだ。
そのバトンを今受け継いでいるのが5代目会長の内山さん。「地域のために何かしたい」という思いから令和5年に同会の活動に加わり、半年後、会長を引き受けた。
会長就任後、盆期間に重なることから朝市を休みにしている8月に夜市を企画し、昨年から開催。キッチンカーやステージを設け、朝市とは違うにぎわいをみせている。「自分が子どもの頃に参加したイベントの思い出をよく覚えていて、今の子どもたちにも地域の思い出を作ってここを好きになってほしい」と語る内山さん。
高齢化が進む中で、時代のニーズに合わせて会の活動も変革が求められている。「古いものを生かしつつ、新しいことに挑戦する。そのギャップがおもしろい。昔のにぎわいを、今のカタチで復活させたい」と意気込む。先人の思いをしつかりと受け止めたうえで、自分たちらしい未来を描いている。